

# 岩田駅周辺地区コンパクトシティの実現に向けて

～ 山口県コンパクトなまちづくりモデル事業 ～  
[まちづくり構想・基本計画]



平成26年5月

山口県

光市

# 目次

## はじめに

- 1 経緯と背景 ..... 1
- 2 趣旨・構成 ..... 2

## 第Ⅰ部 まちづくり構想

- 1 構想の取りまとめの考え方 ..... 3
- 2 現状と課題 ..... 3
- 3 基本的な方向 ..... 10

## 第Ⅱ部 基本計画

- 1 各種施策の展開にあたって ..... 13
- 2 誕生と長寿を支える安全・安心な「和み」のまちづくり ..... 13
- 3 暮らしにやさしい便利な「輝き」のまちづくり ..... 15
- 4 個性きらめく元気な「賑わい」のまちづくり ..... 16
- 5 取りまとめ ..... 18

## 資料

- 資料1 策定経緯について ..... 20

# はじめに

## 1 経緯と背景

### (1) 光市の取組みの経緯

光市は、JR岩田駅周辺地区における「コンパクトシティ」の実現を目指し、平成24年3月に、本地区の総合的な整備に関してハード・ソフトの両面からその方向性を示す「岩田駅周辺地区整備基本方針（以下「基本方針」といいます。）」を策定しました。また、同時期に策定した「光市総合計画後期基本計画」で、特に優先して取り組む政策である「7つの未来創造プロジェクト」の一つに「コンパクトシティによる快適空間創造プロジェクト」を掲げ、その実現のために、総合病院の機能強化や公共施設の再編・集約化、地区内のインフラ整備、さらには、地域包括ケアシステムの構築など、社会資本の効果的な活用と創出の取組みを進めています。

### (2) 山口県の取組みの経緯

山口県は、少子高齢化の進行に対応し、子育て世代や高齢者が共に安全に安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるため、3つのコンセプトにより、将来の県民の暮らしのモデルとなるコミュニティの形成を目指し、先進的に取り組む市町を県が支援する「コンパクトなまちづくりモデル事業（以下「モデル事業」といいます。）」を平成25年に創設しました。

#### ◎ 3つのコンセプト

- 生活に必要な諸機能をコンパクトに集積  
住宅・医療・福祉・商業等、公共サービス 等
- 安全・快適な環境の創造  
ユニバーサルデザイン、再生可能エネルギー、交通基盤 等
- 地域コミュニティの形成  
子育て世代・高齢者等様々な世代の交流 等

### (3) モデル地区の選定

平成25年5月に山口県が将来の県民の暮らしのモデルとなる市街地の形成に積極的に取り組む市町を募集したところ、すでに「基本方針」を策定し「コンパクトシティによる快適空間創造プロジェクト」を進めていた光市がこの募集に応じました。

県では、市の応募がモデル事業の趣旨を踏まえた内容であったことから、

平成25年7月に「岩田駅周辺地区」を「再構築タイプ」のモデル地区に選定しました。

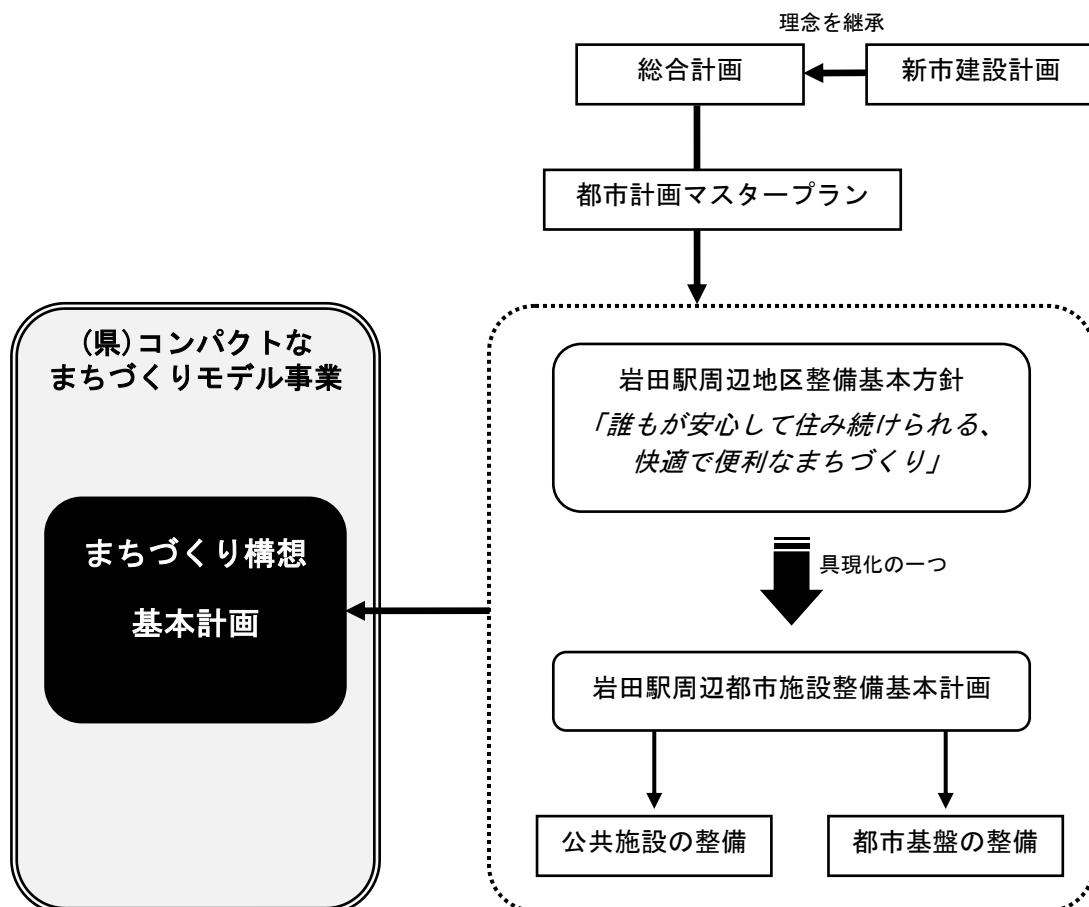
## ○ 再構築タイプ

既成市街地において、公共施設等の再編・統合に伴う市街地再構築の計画を策定し、その計画に基づき施設整備等を行うもの。

## 2 趣旨・構成

この「岩田駅周辺地区コンパクトシティの実現に向けて」は、岩田駅周辺地区において、少子高齢化の進行に対応し、子育て世代や高齢者が共に安全に安心して暮らせるまちづくりを進めるため、まちづくりの主体である光市の計画等を尊重しつつ、基本方針をもとに山口県と市が協働して策定するもので、おおむね20年後を目途とした目指すべき将来像やその形成に必要な施策を取りまとめた「まちづくり構想」と、これに基づき、おおむね10年で取り組むべき施策等を取りまとめた「基本計画」で構成します。

### 【概念図】



# 第 I 部 まちづくり構想

## 1 構想の取りまとめの考え方

岩田駅周辺地区の現状と課題を整理するとともに、市が「基本方針」で示した各種の施策等のうち、県が進めるモデル事業の趣旨と整合するものを取りまとめ、本地区におけるまちづくりの基本的な方向性を示します。

## 2 現状と課題

### (1) 概況

#### ① 沿革

岩田地区は、明治22年の町村制施行にあたり、岩田村として独立村政を敷くこととなりました。明治から昭和初期にかけての人口はおおむね1,400人前後で推移し、周辺の村に比べて少ない状況でしたが、昭和18年の4村合併による大和村発足を境に、人口は増加傾向へ転じました。

明治32年には、山陽鉄道岩田駅（現在のJR岩田駅）が開設され、その後、岩田郵便受取所（現在の岩田郵便局）や大和診療所（現在の大和総合病院）、大和村役場（現在の光市役所大和支所）などの都市機能が集積する市街地へと発展してきました。

昭和40年には、大和村が周南地区工業整備特別地域に指定され、周南工業地帯のベッドタウンとして人口が急増しましたが、昭和60年をピークに人口は減少傾向に転じています。

#### ② 産業経済

平成22年の国勢調査によると、岩田地区における産業別就業者数は1,343人で、第1次産業が3.0%、第2次産業が33.0%、第3次産業が64.0%となっています。第1次産業は全て農業、第2次産業は、建設業が27.7%、製造業が72.3%となっています。第3次産業は、卸売・小売業が24.7%、医療・福祉が24.8%を占めています。

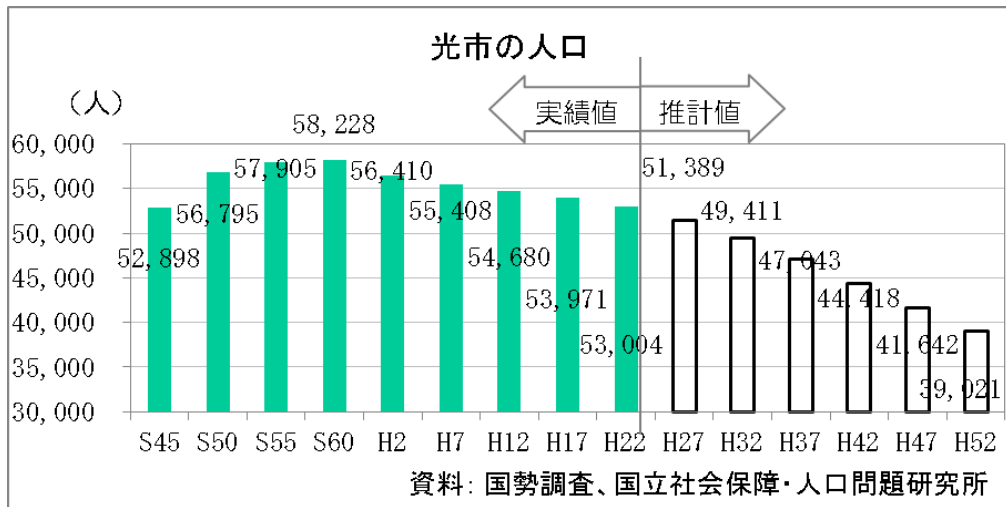
平成19年の買物動向調査によると、大和地域の住民の飲食料品の購入先は、岩田・三輪地区が43.4%と高くなっています。一方で、衣料品や靴などの身の回り品、家具や電気器具など、その他の買物について、岩田・三輪地区で購入する割合は5～14%程度で、浅江・光井地区や柳井市・下松市などでの購入が多くなっています。また、外食で岩田・三輪地区を利用する割合は1.3%と低い状況です。

## (2) 人口

### ① 人口の動向（光市全域）

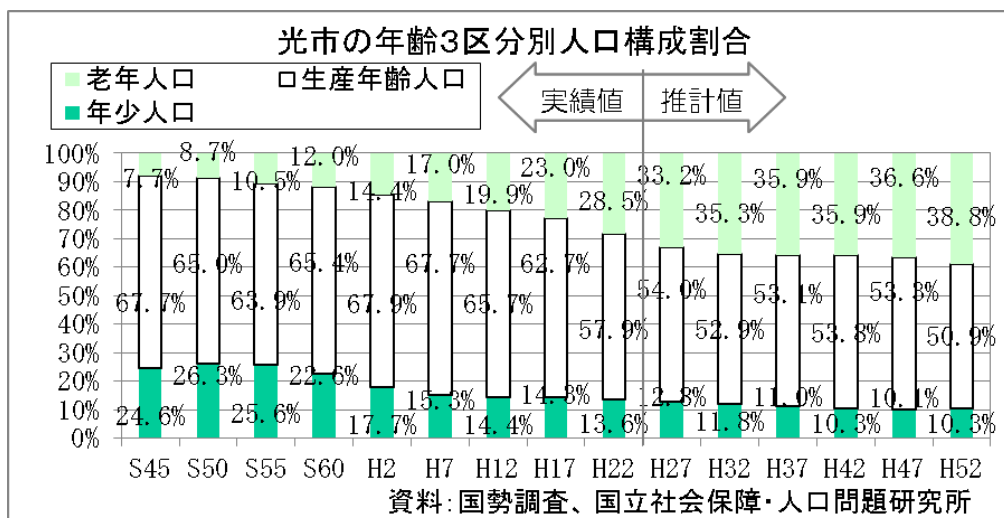
平成22年の国勢調査における光市の人口は53,004人で、昭和60年の58,228人をピークに減少傾向が続いています。

また、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計（出生中位・死亡中位仮定）の結果（以下「推計結果」といいます。）によると、光市の人口は平成27年に51,389人、平成52年には39,021人になると予測されています。



光市全域の年齢3区分別の人口構成では、年少人口（0～14歳）割合と生産年齢人口（15～64歳）割合は減少傾向に、老年人口（65歳以上）割合は増加傾向にあります。

また、推計結果によると、老年人口割合が平成27年に33.2%、平成52年には38.8%になると予測されています。



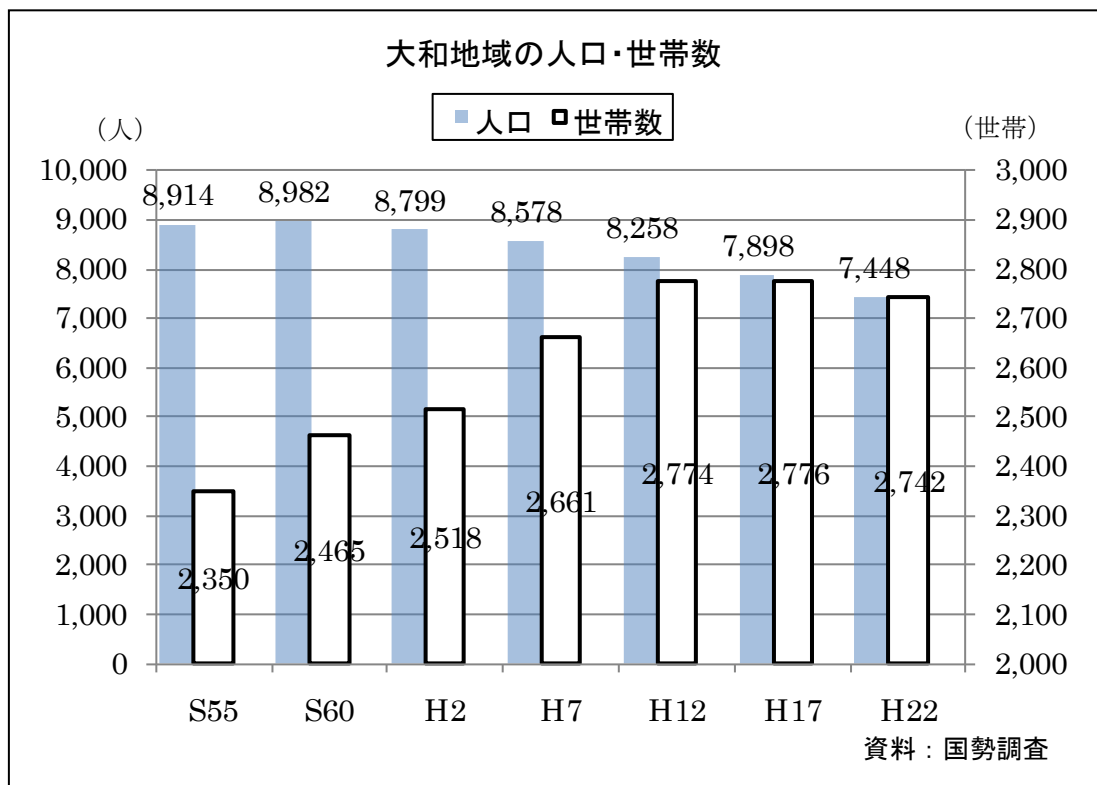
## ② 人口・世帯数の動向（大和地域）

平成22年の国勢調査における大和地域の人口は7,448人で、昭和60年の8,982人をピークに減少傾向にあり、昭和30年とほぼ同じ水準となっています。特に近年では、市全体に比べて3倍以上の高い人口減少率となっています。

また、大和地域の世帯数は2,742世帯で、平成12年までは増加傾向にありましたが、それ以降はほぼ横ばいとなっています。

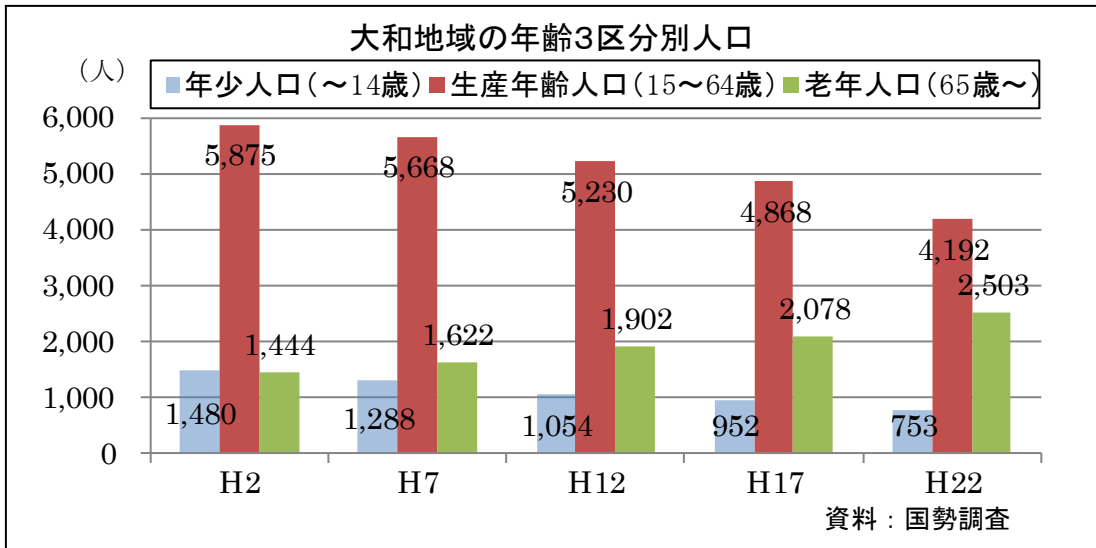
人口が減少する一方で世帯数が増加または横ばいとなる傾向は、全国的にも市全体にも見られます。

なお、平成25年3月末日の住民基本台帳における岩田地区の人口・世帯数は3,155人、1,283世帯で、この数年では、人口は年1～2%の微減傾向、世帯数は1,300世帯前後で横ばいとなっています。



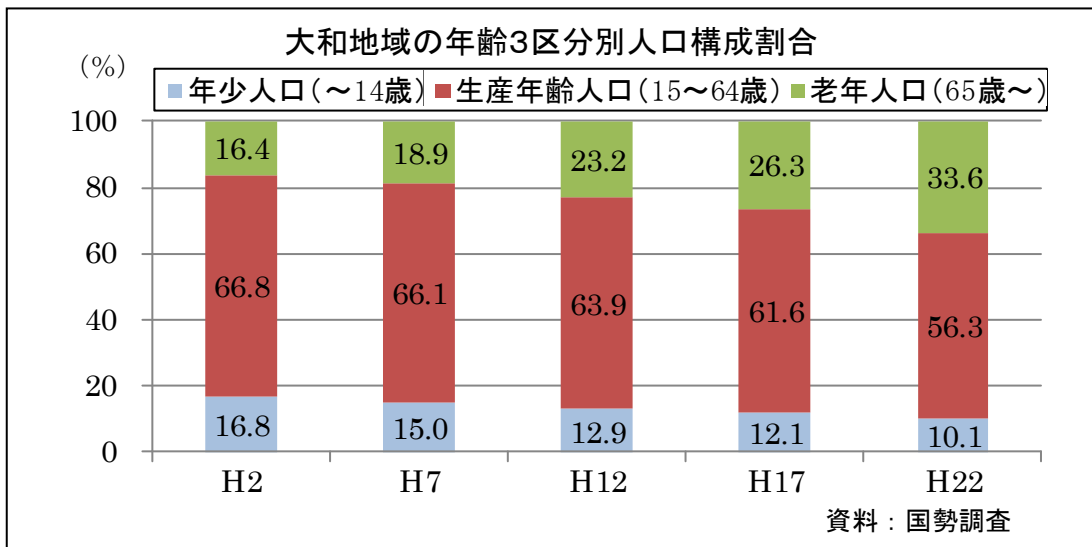
## ③ 年齢別人口（大和地域）

大和地域の人口を年齢3区分別で見ると、光市全域と同様に、年少人口と生産年齢人口が減少傾向に、老年人口が増加傾向にあります。平成2年と平成22年を比べると、20年間で年少人口が約5割、生産年齢人口が約3割減少し、老年人口が約7割増加しています。



大和地域の年齢3区分別人口構成割合では、平成22年の老年人口割合は33.6%で、3人に1人が老年となっています。

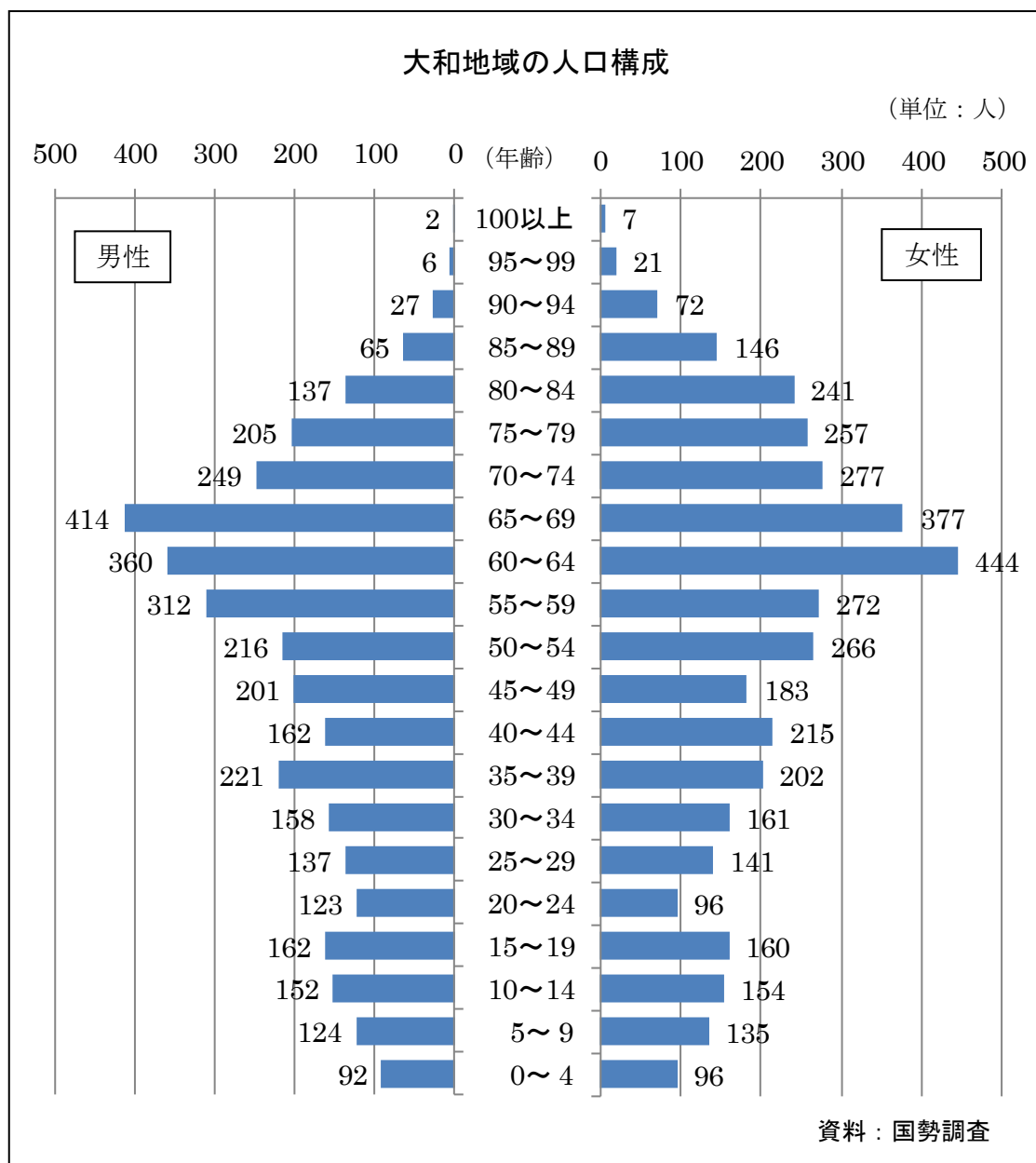
光市全域の老年人口割合28.5%に対し、高齢化が進んでおり、少子高齢化の進行が顕著に表れています。





#### ④ 人口構成（大和地域）

平成22年の国勢調査による大和地域の年齢5歳階級別の人口構成では、男女ともに60～69歳の人口が他の年代に比べて非常に多い状況が見られます。また、70歳以上の全ての階級で、男性に比べて女性が多い状況が見られます。



### (3) 交通機関

#### ① 鉄道の利用状況

平成24年度のJR岩田駅の乗車人員は164,967人で、1日平均約450人となっており、光駅の1/5程度です。県内の山陽本線37駅の中では、少ない方から10位前後の利用状況となっています。

乗車人員の近年の推移をみると、増加している年度もありますが、全体的には減少傾向を示しています。

年度	乗車人員（人）	1日平均乗車人員（人）
平成15年度	201,184	550
平成16年度	194,553	533
平成17年度	190,739	523
平成18年度	184,521	506
平成19年度	187,146	511
平成20年度	189,177	518
平成21年度	181,920	498
平成22年度	181,110	496
平成23年度	175,057	478
平成24年度	164,967	452

出典：山口県統計年鑑

#### ② 市営バスの利用状況

JR岩田駅周辺から光井地区や塩田・東荷地区を巡回する市営バスは、平成24年度で18,670人、1日平均約50人が利用しています。

年度	乗車人員（人）	1日平均乗車人員（人）
平成18年度	6,329	34.77
平成19年度	14,164	38.70
平成20年度	15,993	43.83
平成21年度	18,589	50.93
平成22年度	16,639	45.59
平成23年度	16,543	45.20
平成24年度	18,670	51.15

資料：光市商工観光課

※ 平成18年10月に路線等の見直しを行い、新たに運行を開始しました。このため、平成18年度は、平成18年10月以降の利用状況を記載しています。

#### (4) 課題

##### ① 人口の減少

大和地域の人口は、昭和60年以降一貫して減少を続け、しかも人口減少率は年々拡大しています。中でも、平成22年の年少人口（0～14歳）は、平成2年に比べて半分の水準にまで低下しており、少子化は深刻な状況となっています。また、働き盛り・子育て世代と呼ばれる30～44歳の年代の人口割合が、市全体と比較すると特に少なくなっています。今後さらに人口減少や少子高齢化が進展していくものと考えられます。こうしたことから、地域全体の人口減少による地域活力の低下に加え、20年後の地域社会の中心を担う世代が少なく、地域コミュニティの維持が困難になることが懸念されます。

##### ② 高齢者の増加

現在60歳台前半の団塊の世代が高齢化する時期に重なることと併せて、医療技術の進歩などにより個人の長寿化が進み、これから高齢者人口が加速度的に急増することが予測されています。そのため、医療・福祉・介護への量的なニーズが非常に高まるとともに、高齢者特有の課題に対応できる質的な充実が求められることとなります。

##### ③ 商業の衰退

人口の減少や高齢化の進行など、地域活力の低下による空き店舗の増加が、ますます地域活力を失わせるという悪循環に陥ることが懸念されます。また、郊外型大規模店舗の出店や通信販売等の発達などが進むことで、これらと競合する商店の撤退など、市街地における商業の衰退の深刻化が懸念されます。

##### ④ 交通弱者への対応

高齢化の進行により、自動車などの交通手段を持たない高齢者の急増が想定されます。このため、公共交通に対するニーズの量的な増加や質的な多様化に対応できる交通ネットワークの充実により、日常生活の移動手段となる公共交通を確保するとともに、日常生活に必要な都市機能をコンパクトな範囲に集積し、地域内で完結できる仕組みづくりを進めることが求められます。

##### ⑤ 公共施設や都市基盤等の老朽化

光市役所大和支所や大和公民館をはじめ、市営溝呂井住宅などの公共施設は、いずれも昭和40年代に建設されており、今後、老朽化が一段と進むことが懸念されます。また、本地区の市街地も同時期に形成されており、道路や上下水道などの都市基盤が一斉に老朽化する時期を迎え、自然災害などに対する防災力の低下が懸念されます。

### 3 基本的な方向

#### (1) 基本的な方向

古くから、商業、行政等各種機能が集積し、様々な人が生活、活動、交流し文化や伝統を育んできた本地区は、生活圏がコンパクトにまとまった、住みやすく機能的な地区です。

こうした地域特性を活かし、県と市との協働により、子育て世代や高齢者が共に安全に安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるため、「基本方針」に沿って、本地区の目指すべき姿を次のように定めます。

**誰もが安心して住み続けられる、**

**快適で便利なまちづくり**

#### (2) 目標

おおむね20年間に取り組むべき施策の目標として、次の3つを掲げます。

##### **目標1 誕生と長寿を支える安全・安心な「和み」のまちづくり**

誰もが安心して健康に暮らせるまちとするため、人にやさしい安全な生活基盤を確保するとともに、地域で支えあいながら、子どもや高齢者を大切に思いやる温かい多世代共生社会を構築し、世代を超えた交流の中で、全ての人やすらぎを実感しながら笑顔で生活を営むことができる「和み」のまちをつくります。

##### **目標2 暮らしにやさしい便利な「輝き」のまちづくり**

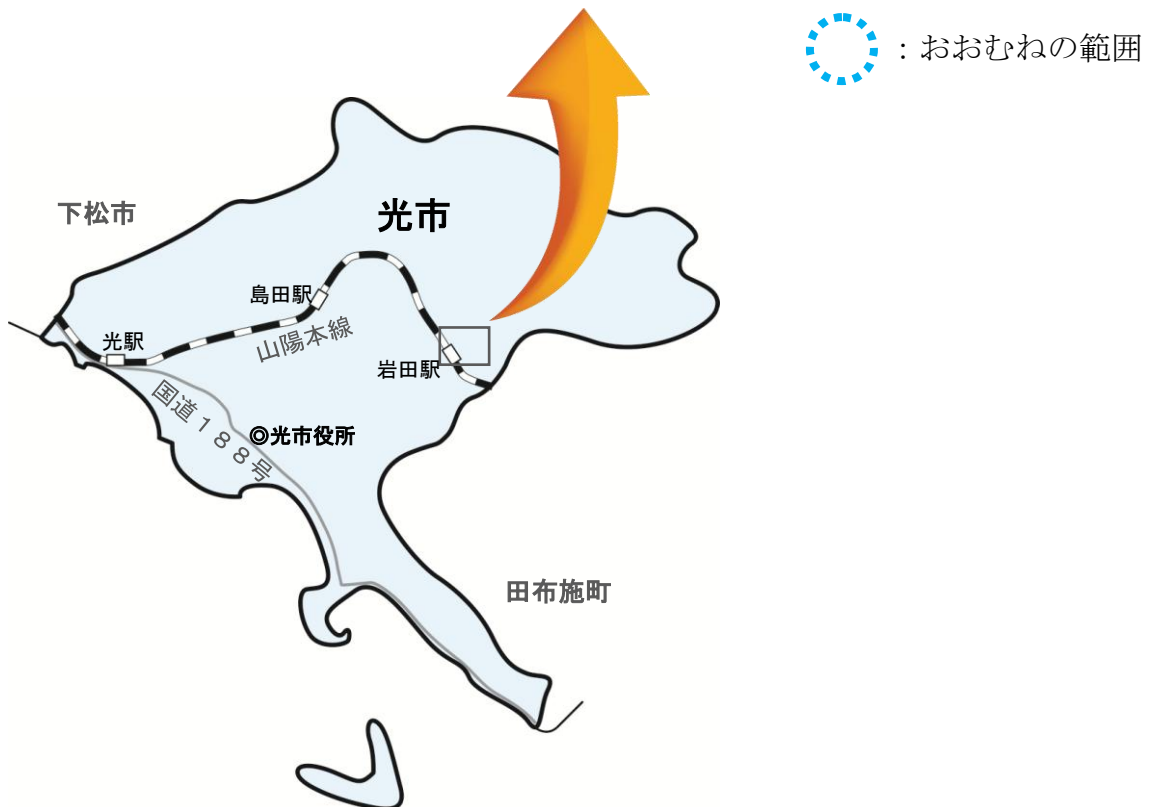
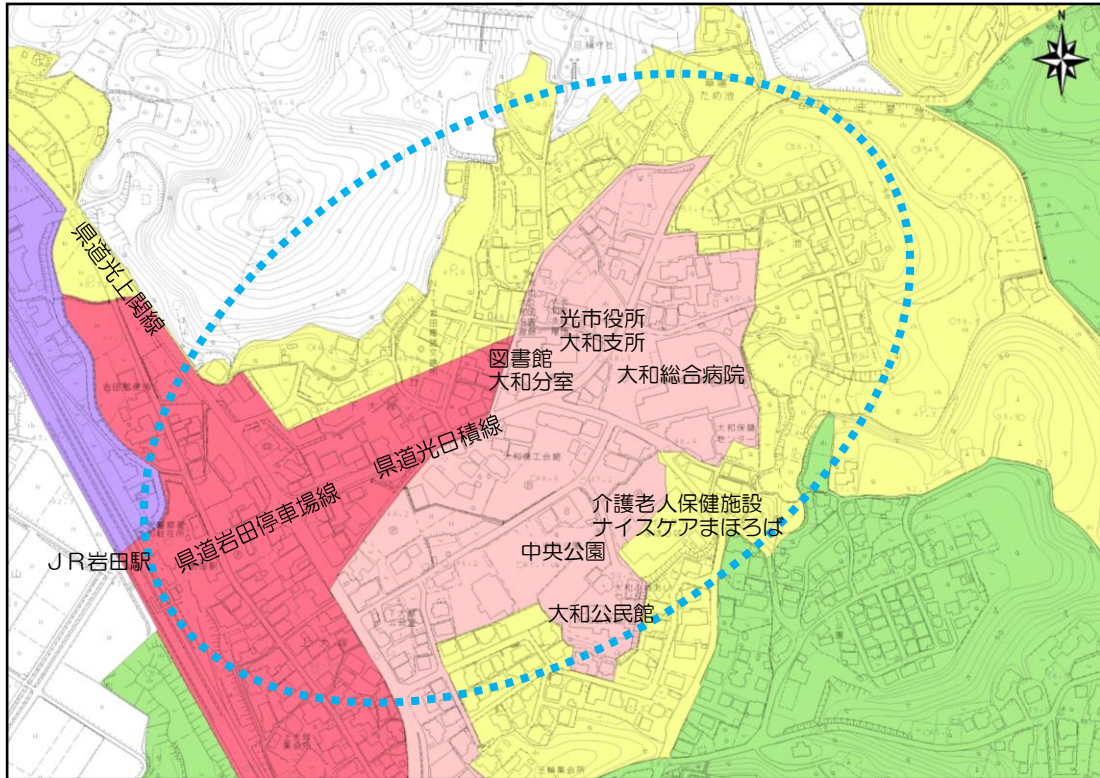
高齢者をはじめ、生活者にとって利便性の高い快適なまちとするため、生活に不可欠な都市機能の再編や再配置を進めるとともに、良好な住環境や交通環境を創出し、全ての人やすしさを実感しながら明るい生活を営むことができる「輝き」のまちをつくります。

##### **目標3 個性きらめく元気な「賑わい」のまちづくり**

活力に満ちた持続可能なまちとするため、様々な資源を活用して地域産業や市民生活に新たな魅力を創出するとともに、地域が持つ個性や特色を活かした様々な交流活動を通じて、人々の五感に感動を与え、全ての人元気で活気を実感しながら生活を営むことができる「賑わい」のまちをつくります。

### (3) 対象範囲

岩田駅と光市役所大和支所や大和総合病院、大和公民館を結ぶ範囲をおおむねの対象とします。



#### (4) 施策展開の方向性

##### ① 誕生と長寿を支える安全・安心な「和み」のまちづくり

- 安全な公共空間の創出
  - ユニバーサルデザインの推進
  - 街路灯・防犯灯の設置
  - 歩車道分離の推進
- 高齢者に配慮した生活環境の整備
  - 大和総合病院の機能強化
  - 地域包括ケアシステムの構築
  - 商品宅配サービスの実施
- 多世代共生社会の構築
  - 多世代交流の場づくり
  - 子どもの遊び場の充実
  - コミュニティ活動の拠点機能の充実

##### ② 暮らしにやさしい便利な「輝き」のまちづくり

- 生活利便性の向上
  - 公共施設の再配置
  - 地域公共交通の充実
  - 駅前の駐車場・駐輪場の整備
- 快適な生活環境の創出
  - 公営住宅の整備
  - 県道・市道の拡幅・整備

##### ③ 個性きらめく元気な「賑わい」のまちづくり

- 魅力ある都市機能の整備
  - まちかど緑化活動の促進
- 賑わい空間の創出
  - 空き店舗の活用促進
  - 魅力ある店づくり
- 環境共生社会の創造
  - 公共施設のエコ化

## 第Ⅱ部 基本計画

### 1 各種施策の展開にあたって

「まちづくり構想」に基づき、おおむね10年で取り組むべき施策等の考え方を整理します。

### 2 誕生と長寿を支える安全・安心な「和み」のまちづくり

#### (1) 安全な公共空間の創出

年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが安心して地域に住み続けるためには、安全な生活を営むことができる生活基盤を整備することが必要です。

このため、公共的施設のユニバーサルデザインや暗がりの解消を推進するとともに、歩道と車道の分離を図るなど、安全な公共空間を創出します。

#### ① ユニバーサルデザインの推進

全ての人にやさしい環境づくりのため、歩道等の段差の解消や、公共的施設のスロープの設置などを推進します。

#### ② 街路灯・防犯灯の設置

薄暮時や夜間における事故、犯罪等の未然防止などのため、危険箇所への街路灯・防犯灯の設置を推進します。

#### ③ 歩車道分離の推進

本地区には、医療・福祉施設をはじめ、行政施設やコミュニティ施設などが集積していることから、歩行者や自転車、そして自動車が、安全で快適に移動できる空間を創出する必要があります。

このため、県道・市道の整備にあわせて、歩車道の分離を進めます。

## **(2) 高齢者に配慮した生活環境の整備**

平成25年3月末現在の住民基本台帳における岩田地区の高齢化率は32.5%で、市全体の30.2%を上回る状況にあり、高齢者が住み慣れた地域で生き生きと健やかに生活できる環境を整備する必要があります。

このため、岩田地区に集積する医療・福祉施設などを活用し、高齢者の日常における生活の支援を推進するなど、高齢者に配慮した生活環境を整備します。

### **① 大和総合病院の機能強化**

住民が安心して生活できる地域医療を維持するとともに、療養病床を中心とした慢性期医療やリハビリ医療などの機能強化を推進します。

### **② 地域包括ケアシステムの構築**

岩田地区に集積する医療・福祉施設や、介護や生活支援などに係るサービスを有機的に連動させた地域包括ケアシステムを構築します。

### **③ 商品宅配サービスの実施**

高齢者等の日常生活を支援するため、食料品をはじめとする商品宅配サービスなどの取組みへの支援を検討します。

## **(3) 多世代共生社会の構築**

次代を担う子どもたちを安心して健やかに生み育てることができる環境を実現するためには、多様な世代間の助けあいにより、地域全体で子育てを支援する風土を築いていく必要があります。

このため、地域コミュニティの育成や強化に努めるとともに、多世代が交流できる環境づくりを促進するなど、多世代共生社会を構築します。

### **① 多世代交流の場づくり**

乳幼児から高齢者まで、世代を超えた幅広い地域住民が集い、ふれあい、交流する機会を創出します。

このため、老朽化した光市役所大和支所や大和公民館などを集約する複合型施設を整備し、子育て世代や高齢者など多世代が交流できる環境づくりを進めます。



## ② 子どもの遊び場の充実

子どもたちが安心して自由に遊べる公園や広場など、遊び場の環境整備を図ります。

## ③ コミュニティ活動の拠点機能の充実

地域コミュニティの育成・強化のため、老朽化した大和公民館などを集約する複合型施設を整備し、コミュニティ活動の拠点機能を充実するとともに、地域づくりの中核を担うコミュニティ組織づくりを検討します。

# 3 暮らしにやさしい便利な「輝き」のまちづくり

## (1) 生活利便性の向上

高齢化がより一層進む中、これまで以上に生活者の視点に立った利便性の高い公共サービスを実現していくことが必要です。

このため、利用しやすい公共施設の整備や配置のあり方等について検討を行うとともに、地域公共交通の充実を図るなど、暮らしの利便性を高めます。

### ① 公共施設の再配置

子育て世代や高齢者など多世代の交流の場の確保や地域コミュニティ機能の強化、生活利便性の向上という市民サービスの充実の観点と、更新に要する費用や維持管理費用の縮減、管理運営の簡素化という施設運営の効率化の観点から、様々な施設を一つに集約する「複合型施設」を整備し、本地区における新たな拠点を創造します。

### ② 地域公共交通の充実

市営バスは、公共施設や商業施設、医療機関等の立地などを考慮した運行ルートの見直しを図るとともに、交通弱者の生活交通を確保する新たなサービスの可能性について検討します。

### ③ 駅前の駐車場・駐輪場の整備

駅等の利用者の利便性の向上のため、JR岩田駅前に駐車場や駐輪場の整備を図ります。

## (2) 快適な生活環境の創出

魅力的で快適なまちを創造するためには、潤いとやすらぎが感じられる良質な都市基盤整備を進めていくことが必要です。

このため、良好な居住環境の形成や通行しやすい道路整備を推進するなど、快適な生活環境を創出します。

### ① 公営住宅の整備

市営溝呂井住宅を岩田駅周辺地区に移転建替えを図り、本地区に新たな「住機能」を創出します。また、子育て世代から高齢者までの多世代が交流できる場づくりを目指し、多様な世代に配慮した公営住宅の整備について、県と市が連携して調査研究を進めます。

### ② 県道・市道の拡幅・整備

岩田駅と複合型施設や大和総合病院の間を歩いて移動する際の動線となる県道・市道については、歩行者や自転車、そして自動車が、安全で快適に移動できるよう整備を進めます。

## 4 個性きらめく元気な「賑わい」のまちづくり

### (1) 魅力ある都市機能の整備

岩田地区は、大和地域の玄関口として、人を惹きつける魅力や個性を高め、他地域との交流活動をリードしていくことが必要です。

このため、地域の特色を活かしたまち並みの形成を進めるなど、都市機能の整備充実を図ります。

### ① まちかど緑化活動の促進

四季折々の花を楽しめる環境づくりのため、地域住民の協力を得ながら、まちかど緑化活動の展開を促進します。

## (2) 賑わい空間の創出

経営者の高齢化や後継者不足などから空き店舗が増加し、住民生活への影響やまち全体の活気の喪失が懸念される中、地域の力を結集し、活力を再生していく必要があります。

このため、商業環境を再生する空き店舗の活用や、特色・魅力のある店づくりを促進するなど、活気と賑わいに満ちた空間を創出します。

### ① 空き店舗の活用促進

商店街の賑わいと魅力を創出するため、民間活力による空き店舗の活用や定期的なイベントの展開などを促進します。

### ② 魅力ある店づくり

地元関係団体等と連携しながら、地域内外からJR岩田駅前エリアへの起業や、特色・魅力のある店づくりを促進します。

## (3) 環境共生地域の創造

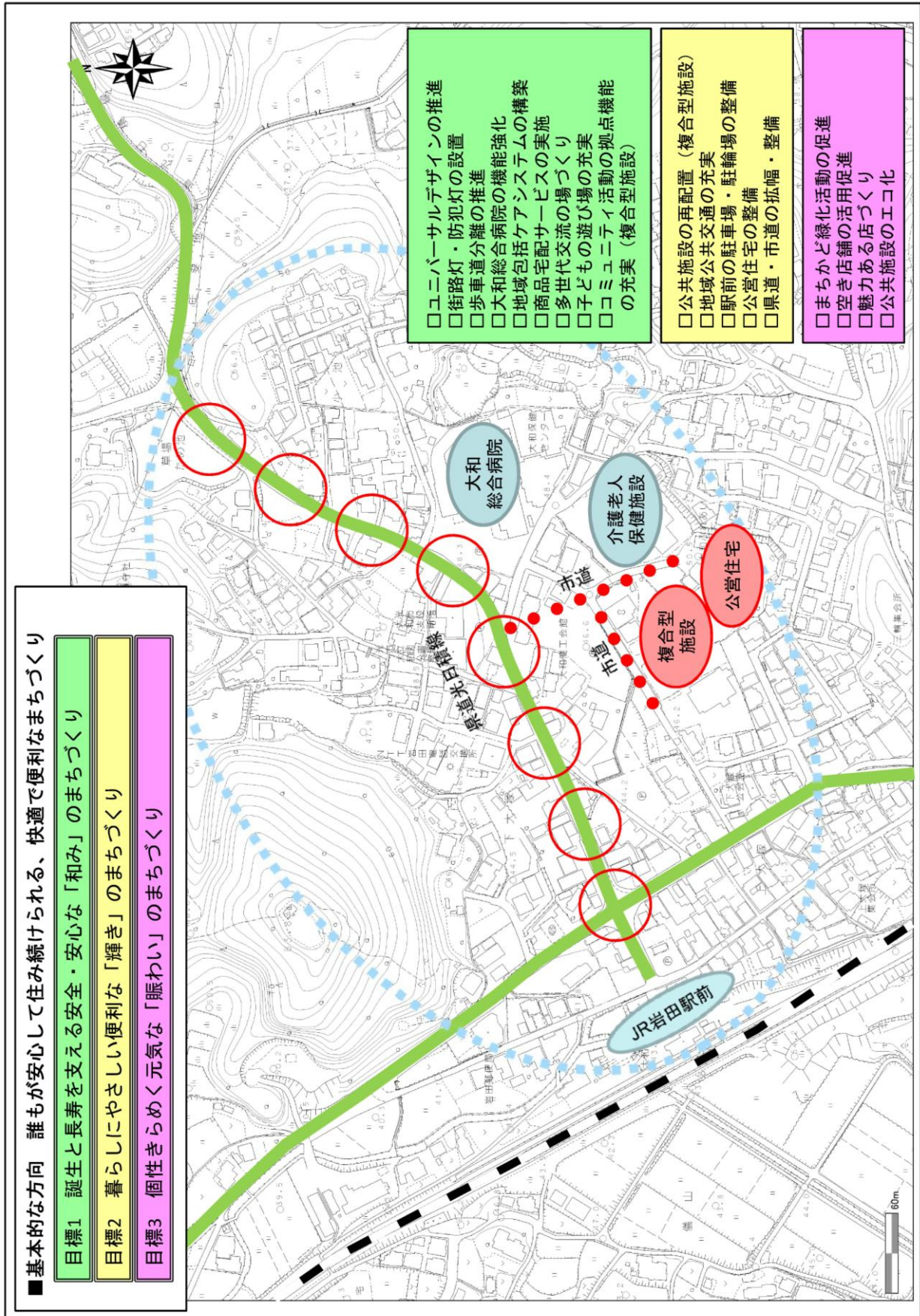
人々の生活が豊かになった反面、日常生活や事業活動から生じる環境への負荷が増大しており、環境と共生する住民意識の高揚を図ることが必要です。

このため、自然エネルギーの導入を進めるとともに、自然環境と災害対策等の両立を図るなど、環境共生地域を創造します。

### ① 公共施設のエコ化

公共施設の施設整備と併せて、太陽光などの自然エネルギーの導入を推進します。

## 5 取りまとめ



【施策等の体系の整理】

目標	施策展開の方向性		モデル事業のコンセプト			事業主体		
			生活に必要な諸機能をコンパクトに集積	安全・快適な環境の創造	地域コミュニティの形成	民間	県	市
誕生と長寿を支える 安全・安心な「和み」のまちづくり	安全な公共空間の創出	ユニバーサルデザインの推進		◎		○	○	○
		街路灯・防犯灯の設置		◎		○	○	○
		歩車道分離の推進		◎			○	○
	高齢者に配慮した生活環境の整備	大和総合病院の機能強化	◎					○
		地域包括ケアシステムの構築	◎			○		○
		商品宅配サービスの実施	◎			○		○
	多世代共生社会の構築	多世代交流の場づくり			◎	○		○
		子どもの遊び場の充実			◎	○		○
		コミュニティ活動の拠点機能の充実			◎	○		○
暮らしにやさしい便利な 「輝き」のまちづくり	生活利便性の向上	公共施設の再配置	◎					○
		地域公共交通の充実		◎		○		○
		駅前の駐車場・駐輪場の整備		◎		○		○
	快適な生活環境の創出	公営住宅の整備	◎				○	○
		県道・市道の拡幅・整備		◎			○	○
個性きらめく元気な 「賑わい」のまちづくり	魅力ある都市機能の整備	まちかど緑化活動の促進			◎	○		○
	賑わい空間の創出	空き店舗の活用促進	◎			○		○
		魅力ある店づくり	◎			○		○
	環境共生地域の創造	公共施設のエコ化		◎				○

## 資料1 策定経緯について

### 1 まちづくり構想・基本計画の策定経過

年	月 日	取組内容
平成25年	5月31日	県が「コンパクトなまちづくりモデル事業」を創設し、モデル地区を募集
	6月24日	光市が「岩田駅周辺地区」を応募
	7月12日	県が「岩田駅周辺地区」をモデル地区の一つに選定
	10月29日	県が支援チーム・ワーキンググループを設置
	11月26日	岩田駅周辺地区ワーキンググループを開催 (光市の取組の経緯等を説明)
平成26年	2月26日	岩田駅周辺地区ワーキンググループを開催 (まちづくり構想・基本計画の素案説明)
	4月23日	支援チーム会議を開催 (まちづくり構想・基本計画(案)の報告)
	5月	まちづくり構想・基本計画を策定

### 2 光市による「岩田駅周辺地区整備基本方針」の策定経過

年	月 日	取組内容
平成22年	10月16日	第1回ワークショップ 「地域をもっと知ろう」(タウンウォッチング)
	11月10日	第2回ワークショップ 「地域の良いところ、改善すべきところ」
	11月24日	第3回ワークショップ 「地域の将来のために」
平成23年	2月 1日	第4回ワークショップ 「実現に向けて ～役割分担と自分自身ができること～」

	2月 7日	ワークショップの成果発表 個人発表「踏み出そう宣言」
	8月30日	ワークショップの成果取りまとめ
	12月21日	岩田駅周辺整備市民検討会議において、岩田駅周辺地区整備基本方針（案）の説明
	12月25日から1か月間	パブリックコメント手続により、市民から意見を募集
平成24年	3月21日	岩田駅周辺整備市民検討会議において、岩田駅周辺地区整備基本方針の最終案の報告



ワークショップの開催風景





---

**岩田駅周辺地区コンパクトシティの実現に向けて**

～ 山口県コンパクトなまちづくりモデル事業 ～

[まちづくり構想・基本計画]

山口県・光市

---